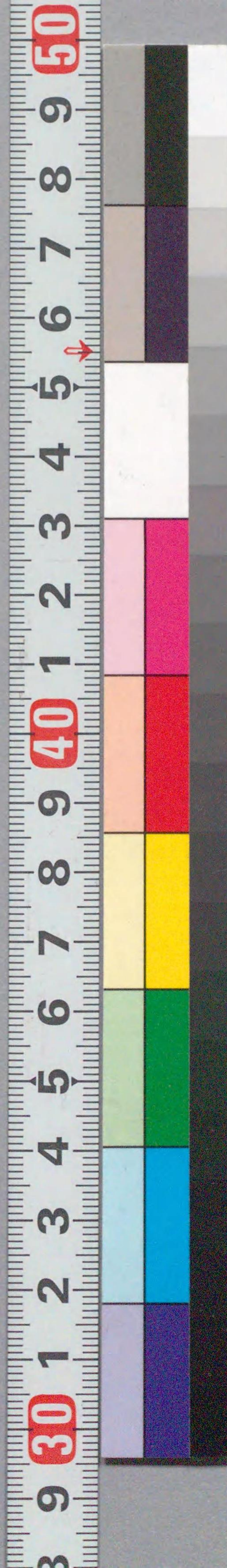


国立国会図書館 読と歌通の寄合：2巻 207-92



ガラス使用

讀と歌通の寄合
三年

207
92

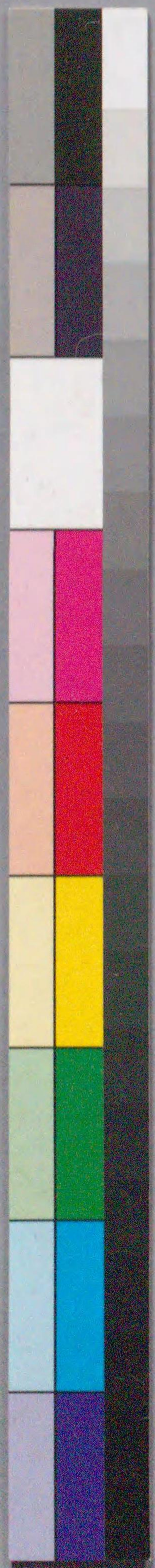
柱原 艶美 作



序

崔海中より略する通人必以書を居りて
 たるは世の衰化見難くはもてては情を能く唯
 けりたのめりたりと堅き親に乃教訓の空嘆
 風と身共入る見極るるも似て通人の友交る
 るは世の流りあられもどる氣より依り
 法依りてはほい唾落るるのひきあはしむの儀も
 此通人を類するはゆるゆるの業味
 費し今更にこれとて又も病をいふは
 種を拾ひ二冊に附く初春の一笑となり
 則ち世中通會令と題との
 天明癸卯の月 作者 在原艶美

本所業平稿









一 佛もあつて
 うさぎのいふ
 いちがうのうけ
 佛のあり
 一 佛もあつて
 うさぎのいふ
 いちがうのうけ
 佛のあり



一 佛もあつて
 うさぎのいふ
 いちがうのうけ
 佛のあり
 一 佛もあつて
 うさぎのいふ
 いちがうのうけ
 佛のあり



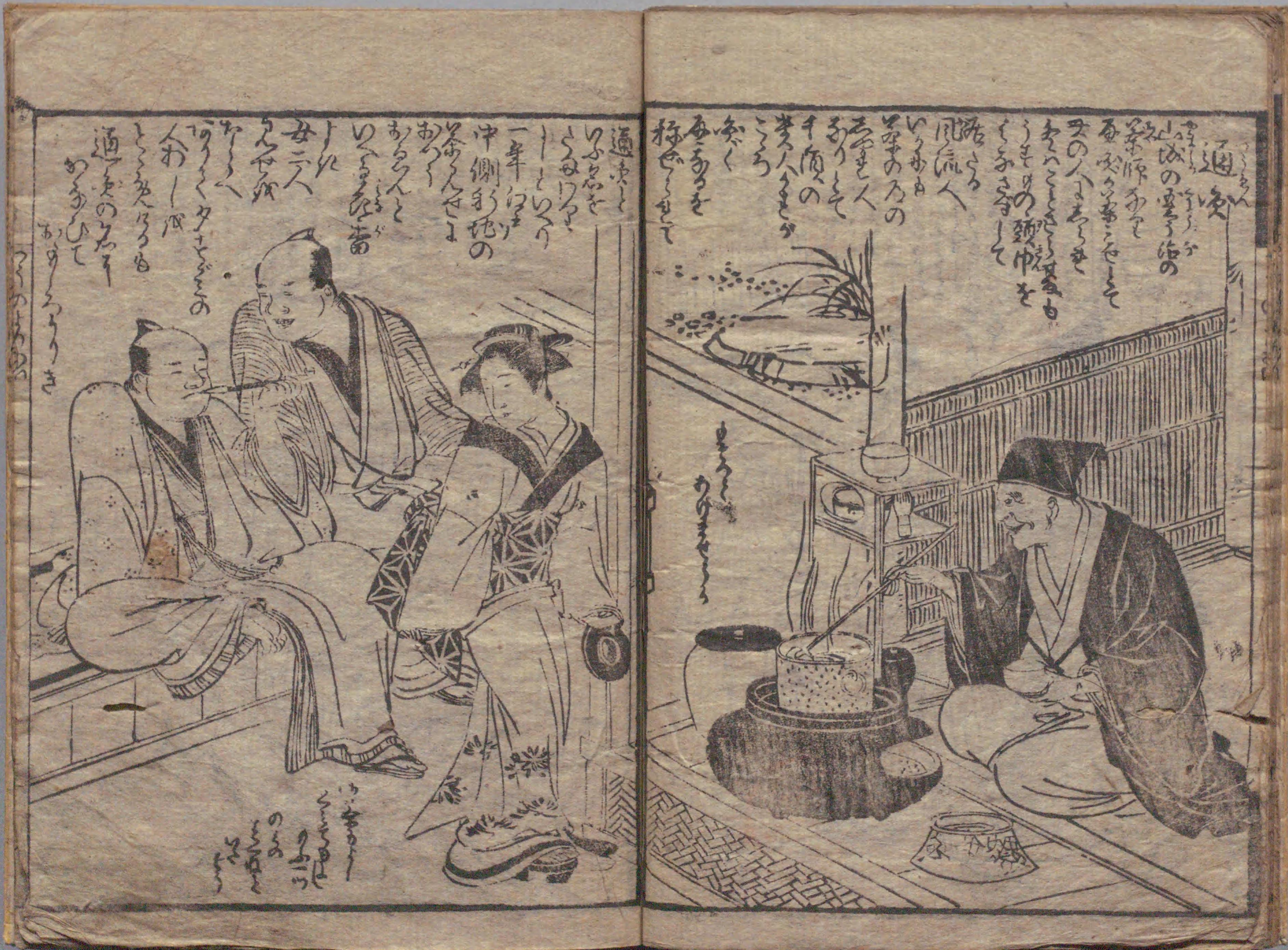




8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 6 7 8 9 50







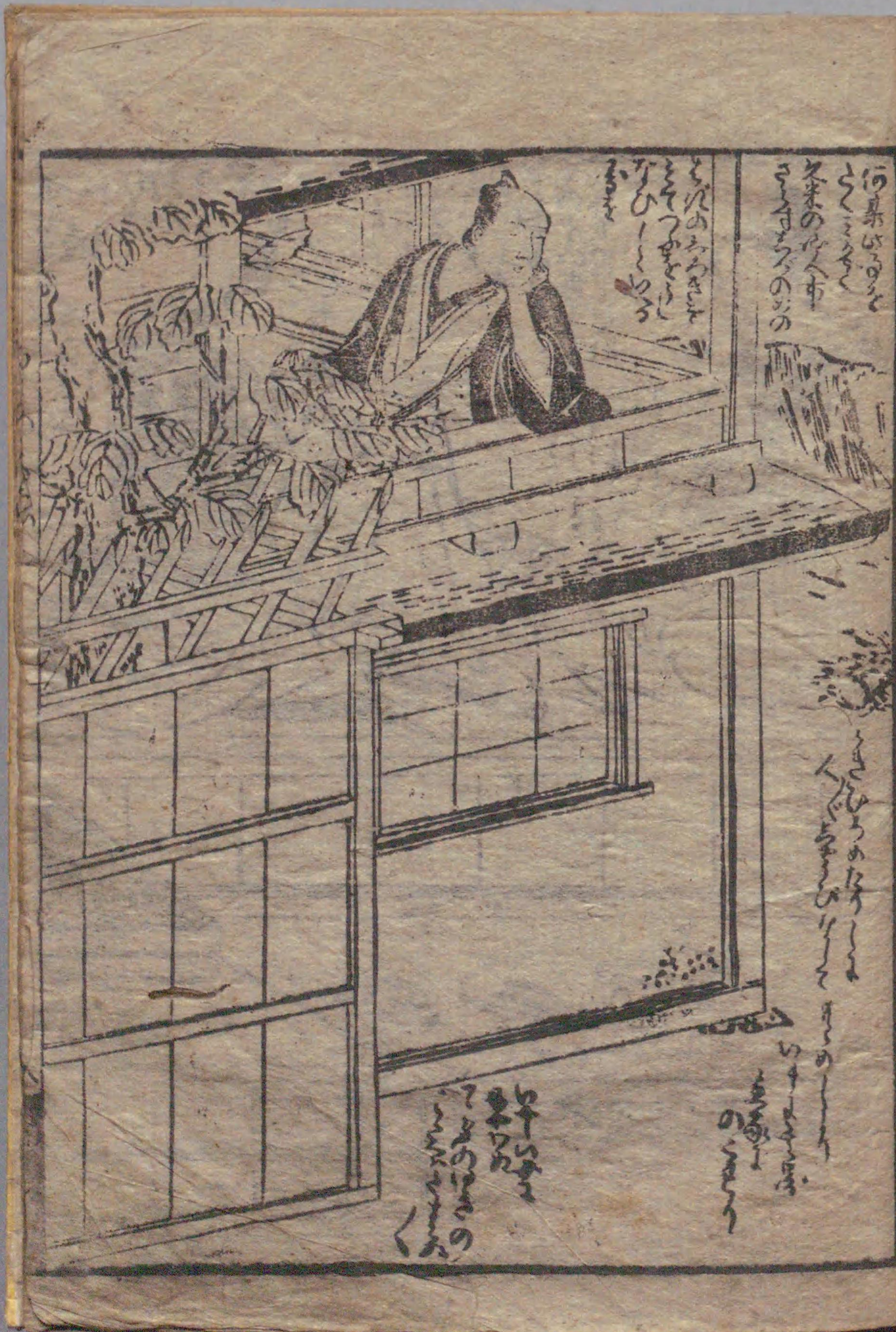
通夜
 山崎の屋敷の
 糸師あを
 各必多きをせしを
 女の人はあをき
 ちていこしとてはまも
 うきりの頸巾を
 うきり守りて
 流るる
 風流人
 いかぬ
 茶のあらの
 ちりきり
 千両の
 美人まき
 こころ
 かく
 各あるを
 称せしめて

通夜
 山崎の屋敷の
 糸師あを
 各必多きをせしを
 女の人はあをき
 ちていこしとてはまも
 うきりの頸巾を
 うきり守りて
 流るる
 風流人
 いかぬ
 茶のあらの
 ちりきり
 千両の
 美人まき
 こころ
 かく
 各あるを
 称せしめて

通夜
 山崎の屋敷の
 糸師あを
 各必多きをせしを
 女の人はあをき
 ちていこしとてはまも
 うきりの頸巾を
 うきり守りて
 流るる
 風流人
 いかぬ
 茶のあらの
 ちりきり
 千両の
 美人まき
 こころ
 かく
 各あるを
 称せしめて

通夜
 山崎の屋敷の
 糸師あを
 各必多きをせしを
 女の人はあをき
 ちていこしとてはまも
 うきりの頸巾を
 うきり守りて
 流るる
 風流人
 いかぬ
 茶のあらの
 ちりきり
 千両の
 美人まき
 こころ
 かく
 各あるを
 称せしめて





河原のほとり
とくこころ
冬来のひんす
さかしののしの
もりのあまき
とつとつ
かひー

あまき
とつとつ
かひー

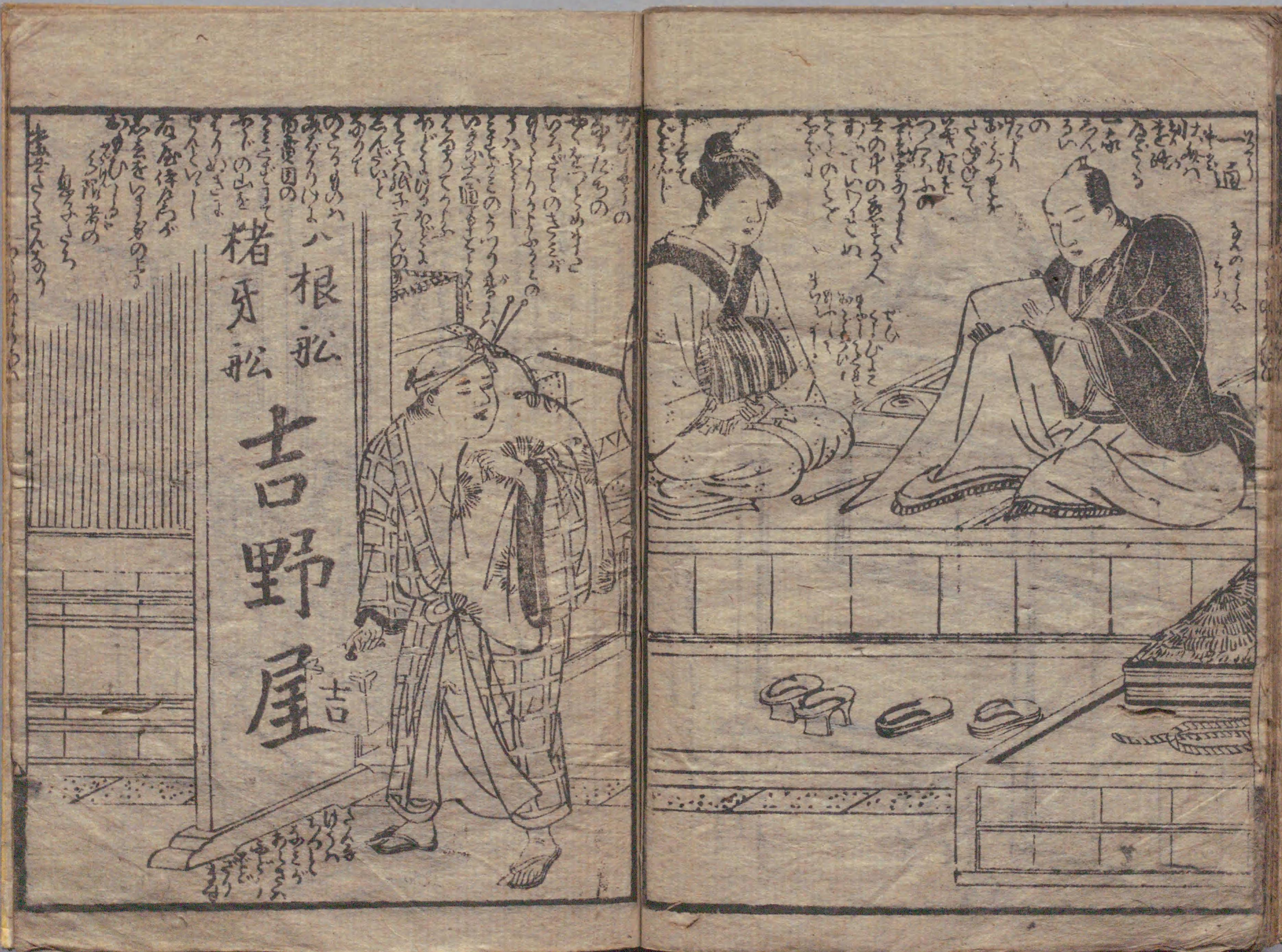
あまき
とつとつ
かひー

通はたふ
りののこころ
あまき
とつとつ
かひー



りのあひし
とつとつ
かひー





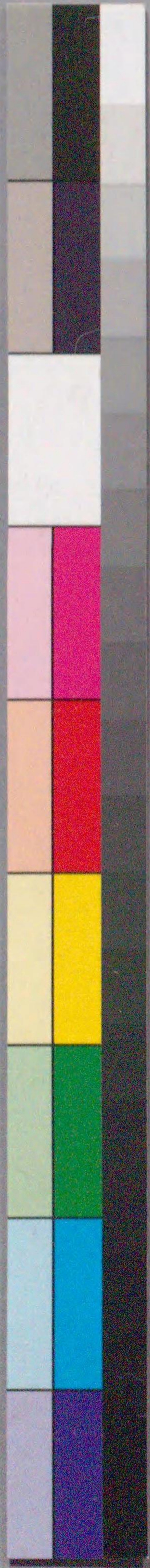


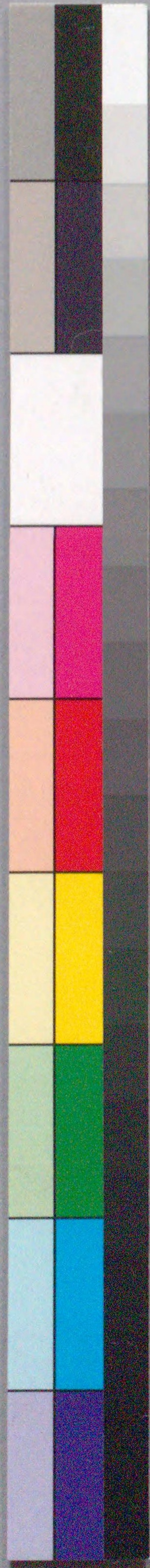
207
92



北尾政美画

8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50





国立国会図書館 読と歌通の寄合：2巻 207-92



ガラス使用

